

---

# **偽りの天使と悪魔**

眠虎

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

偽りの天使と悪魔

### 【NZコード】

N9442K

### 【作者名】

眠虎

### 【あらすじ】

悪魔が天使の家に遊びに行くお話し。

良い天使ばかりじゃない、悪い悪魔ばかりじゃない、そう思いながら書きました。

今は短編ですが、もしかしたら発展するかもしません。

「だからそれが偽善だつて言つてゐるの…」

ふわふわの白い絨毯じゅうたんの上で変な格好で話し合つてゐる一人の少女がいた。二人とも丈の短いゆるい衣装を身に着けていて、白と黒の対照的な色を纏つっている。

「ただ私はあなたとたくさん遊びたいだけなのに、どうして、偽善者呼ばわりするんでしょう？あなたは最悪な方向に持つていろいろとする癖に……」

白い衣装の少女は涼しい顔で言つた。

最悪な方向？私にとつて最善な方法だつて思つてゐるんだけどね。

「いいえ、絶対そうです。いつもいつも私の邪魔ばかりして、時間が少なくなります。

また今日も邪魔をして時間が無駄になつたでしょう？そんなに意地悪して私のことが嫌い？」

嫌いじゃないし、意地悪だつてしてない……けど

黒の少女は頭に付いている耳を掻いた。そして、目を閉じ、耳を澄ませる。

さて、そろそろ時間だ。私は帰るよ。

少女は前に数歩進んで行く。足を動かす度に絨毯から煙が舞い、細い素足が見え隠れする。

あら……今度はもつと遊びましょう。全然遊び足りないもの。誰のせいからしら

それは私のせいなのか？と思いながらもスルーして別れの挨拶をした。

それじゃ、また今度。

「

ええ。また今度。

「

背中に生えた小さな羽を羽ばたかせながら宙に浮いていく黒の少女。体は上に上にと昇つて行く。

ああ、それと。」

上から見下ろした状態で話をつけ加えた

次、行く時はもつと穩便にな?本当に出禁になるから「

白の少女は衣装の何処からかハンカチを取り出して田から零れた熱い涙を押さえた

私、魔李亞ちゃんが、紅くて、小さな魚になつてもずっと、ずっとお友達だからね。そんなことで私達の友情は壊れないよ?だからいつでも遊びに来てね?お茶碗のお風呂も用意しておくから。」

滝のように流れる涙を必死で拭っている白の少女に壮絶な突っ込みが降り注ぐ

あたしは出田金の目玉妖怪かつ。はあつはあつ……省略したら何言つてるのかよくわからなくなつたし。まあ、使瑠稀<sup>シリキ</sup>。要は出入り禁止になるから誤解を招くような事はあまりしないでくれつて事。まあ元から種族的には出禁。出入り禁止だけどお互い暗黙の了解で一応認めてくれてる。私も毎回両親に誤解解くの疲れるから、やめてくれ。……もう時間がないから帰るわ。じゃあな」

ええ。さよなら

悪魔の魔李亞が飛び去つた後、使瑠稀は家の中に入るとすぐに使瑠稀の両親が戻つてきた

あ、お父様、お母様。おかえりなさい。」

使瑠稀、ただいま。それよりまた来たのか。

俯き加減で使瑠稀は答えた

……はい。

あれも、あいつがやつたんだな?」

あれも、あいつがやつたんだな?」

……はい。お父様。「

使瑠稀の父親は奥の部屋へ入つて行つた

数時間後、魔李亞は自分の家へと戻つて来ていた。

……ただい、ま?」

……つ。「

目の前に父親らしき男が居たが、何もしゃべらない。緊張の絶えない沈黙が数秒続き、そしてその沈黙が破られた。

どこへ……行つてた?」

……。「

魔李亞は口を閉ざした。その黙秘が返つて答えになつていた。  
またやつたんだな?」「

ち、ちがつ。」

必死で否定しようとした魔李亞の声は全く父親の耳には届かない  
それなら、お前じやなけば誰がやるんだ。あの子の家の番犬の  
天狗二匹。お前しか殺る者がいないだろう。本来なら戦争にも繋が  
ることだ。今回も私の体罰でことが済むだけ有難く思え、経済的に  
助けられているのだから、断ることもできない。許せ。準備は出来  
ている。」

……はい。『

魔李亞は何も訴えることはなく、素直に頷いた。

黒衣の外に見えている肌は天使を思わせるような白さで美しか  
つたが、その衣で隠されている背中は、偽悪の刻印が何十ヶ所も刻

まれており、今回も火傷のように赤く腫れ、一生消えることはない。

ただ、黒き天使との約束を守る為に、今回も耐えるのだろう。

傷も事実もいえないままに……

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9442k/>

---

偽りの天使と悪魔

2011年10月7日02時20分発行